

# 「まつり」をつくる・知る・つなぐ

## 冬の逢瀬 楽しむ神々



ふるさとの祭り



町内山、熊倉山、上三木町などで、歌舞伎を奉納する本町の特色(2017年12月3日、株式会社)

本町屋台を曳く本町運動会と地み子を結する神輿(2017年12月3日、株式会社)

### 豪華絢爛 屋台や笠鉾 秩父夜祭

秩父夜祭は、秩父市街を巡る屋台や笠鉾の行列が、冬の夜に華やかさを添える。今年も12月31日(日)と4日(月)の2日間、市内各所で開催される。屋台は、豪華な装飾と音楽で、観衆を魅了する。笠鉾は、鉾師の巧みと、観衆の応援が、一体となって、街を盛り上げる。夜祭は、秩父の伝統文化を、現代に伝える貴重な機会である。

**ユネヌコ 無形遺産**

ユネヌコは、秩父市街を巡る屋台や笠鉾の行列が、冬の夜に華やかさを添える。今年も12月31日(日)と4日(月)の2日間、市内各所で開催される。屋台は、豪華な装飾と音楽で、観衆を魅了する。笠鉾は、鉾師の巧みと、観衆の応援が、一体となって、街を盛り上げる。夜祭は、秩父の伝統文化を、現代に伝える貴重な機会である。



秩父夜祭は、秩父市街を巡る屋台や笠鉾の行列が、冬の夜に華やかさを添える。今年も12月31日(日)と4日(月)の2日間、市内各所で開催される。屋台は、豪華な装飾と音楽で、観衆を魅了する。笠鉾は、鉾師の巧みと、観衆の応援が、一体となって、街を盛り上げる。夜祭は、秩父の伝統文化を、現代に伝える貴重な機会である。

**秩父人の生きがい**

秩父市は、自然豊かな環境と、伝統文化を誇る。市民は、自然と文化を、生きがいに感じている。秩父市は、自然豊かな環境と、伝統文化を誇る。市民は、自然と文化を、生きがいに感じている。

### ひな人形と熱々おかゆ オヒナゲエ 小鹿野で



ひな人形を飾った石囲いの中でおかゆやオヒナゲエを食べる子どもたち(小鹿野町民会)

子どもたちが河原でおかゆを作って食べる月遅れのひな祭の行事「オヒナゲエ」(国選択無形民俗文化財)が3日、小鹿野町河原沢の河原沢川で行われた。子どもたちが野外で共同炊飯する野遊びの習俗を残した行事。由来を始め、時期は不明だったが、現在は少子化の影響でかつては交差点ごとに行われていたが、現在は少子化の影響で三田川小学校と同幼稚園の子どもたちが河原沢に集まって行っている。

この日は約30人が参加、米を持ち寄り、親たちの手伝っておらいながら石を積んで作ったかまどでおかゆを炊き、みそ汁を作った。昼前には出来あがり、子どもたちの代表がひな人形や菜の花などを飾った石囲いの祭壇に、おかゆとみそ汁をお供えた。

その後、大人たちも含め全員で熱々のおかゆなどを食べるが、ひとこときき過ぎしていた。

勝亦あき子(東京大学教育学部附属中等教育学校)  
 田辺留美子(葛飾区教育委員会)、宮本未優(埼玉新聞)、  
 瀬川結美、高橋菜奈子、横山美咲(東京学芸大学附属図書館)

(磯田正重)

# 祭りに参加する子どもたちの様子は？

昔(学芸大図書館の一枚絵)



『おまつり：  
子供あそび』



『はっ午：  
子供あそび』

埼玉新聞 県北 2012年(平成24年)4月4日(水曜日)



ひな人形を飾った石田いの中であかやま汁を食べる子どもたち  
小鹿野町河原沢

子どもたちが河原であかやま汁を作って食べる月遅れのひな祭りの行事「オヒナゲエ」(国選択無形民俗文化財)が3日、小鹿野町河原沢の河原沢川で行われた。子どもたちが野外で共同炊飯する野遊びの習俗を残した行事。由来が始まった時期は不明だったが、現在は少子化の影響で三田川小学校と同幼稚園の子どもたちが河原沢に集まって行っている。

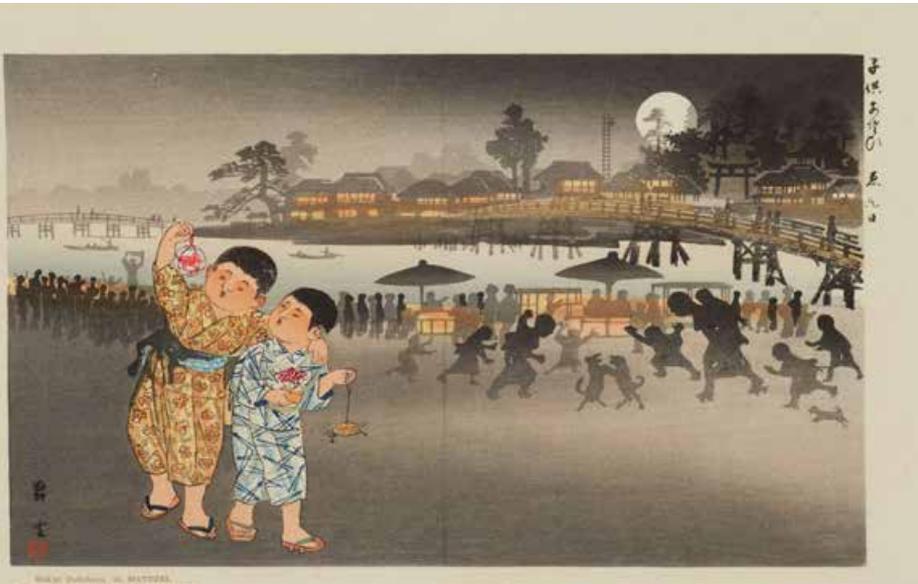
この日は約30人が参加、米を持ち寄り、親たちに手伝ってもらいながら石を積んで作ったかまどでおかゆを炊き、みそ汁を作った。昼前には出来あがり、子どもたちの代表がひな人形や菜の花などを飾った石田いの祭壇に、おかゆとみそ汁をお供えた。

この後、大人たちも含め全員で熱々のおかゆなどを食べながらひとときを過ごしていた。

(磯田正重)

ひな人形と熱々おかゆ  
小鹿野で  
オヒナゲエ

# お祭りに参加する子どもたちは何を楽しみにしていた？



『子ども遊び: ゑん日』山本昇雲 明治 40年3月

## 元気な歌声で終幕

蕨・機まつり 児童5人が熱唱



「わらび機まつり」スターライトステージのフィナーレを飾ったキッズシンガーズ＝J R 蕨駅前

8日から10日まで3日間にわたって開催された「第64回わらび機まつり」は台風11号の強風と雨の中で閉幕したが、祭りを盛り上げたのは、地元バンドが競演した駅前のスターライトステージのフィナーレで、子どもたちの元気な歌声だった。

歌ったのは男子3人、女子2人のキッズシンガーズ。10日午後7時すぎ、とつぷりの日が暮れた舞台上「ピリッパ」や「上を向いて歩こう」を歌い上げた。

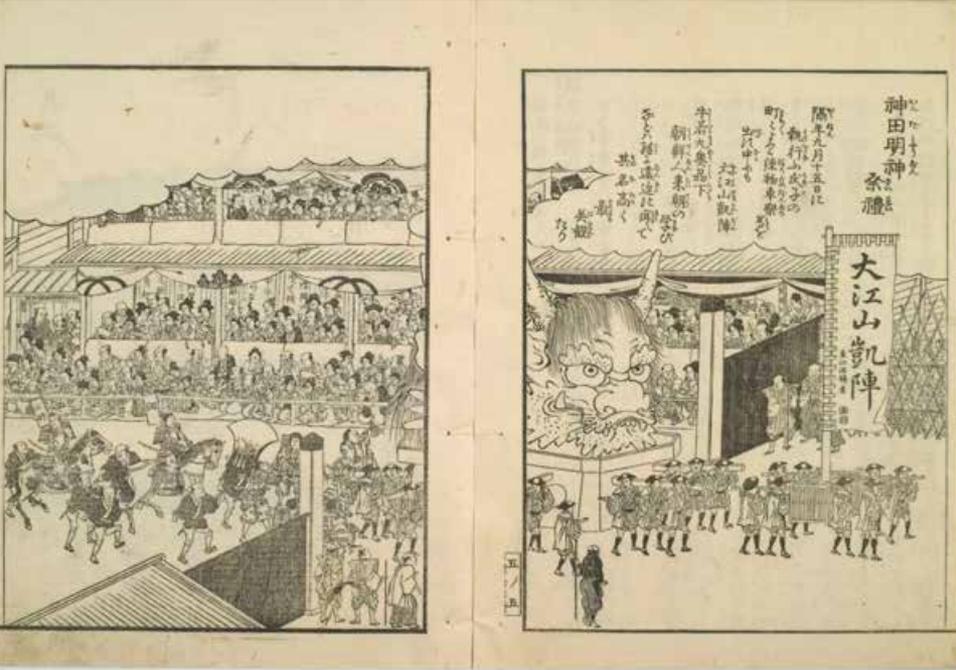
塚越小5年の増淵倅成君は「気持ちを入れて歌った」。妹の同1年の優里ちゃん、川口安行小5年の中元海玖都君、蕨南小5年平下魁人君、

北小4年の山田陸さんらは「みんなと一緒に歌えてよかった」と語った。

スターライトステージのチーフは中山道蕨宿の酒屋「油奥(あぶおく)」8代目の芳野昇さん(57)。芳野さんは「心配した通り台風がぶつかった。でも、気にせず根性でやりぬいたのがよかった」。

川口と蕨の人たち4人のバンド「オーケーズ」のマスター、蕨で旗屋「染太郎」を営む影山洋さん(58)は「機まつりには昭和の匂いがある。昭和の触れ合いが実感できるのがいい」と話した。(岸鉄志)

# お祭りをする大人たちは何を楽しみにしていた？



ふるさとの祭り

芸が好き町ぐるみ

役者、裏方こなす住民  
小籠野歌舞伎  
郷土が 増う舞台

裾野広げ後継者を  
歌舞伎保存会

命吹き込む熟練の技  
織津の人形芝居

冬 逢瀬 楽しむ神々

豪華絢爛 屋台や笠鉦

秩父人の生きがい

盛り上げる囃し手





# 神輿や山車や神楽囃、今と昔の相違点は？



『日枝神田両社御祭礼寿古録』

明治4年(1871)



『新板鼠の戯』

明治17年(1884)

## 飯能祭り

市域での山車の引き回しは明治時代以降に始まり、大正には山車の新造や他所からの購入が盛んに行われた。  
(埼玉新聞 2018年1月1日記事より)



## 久喜・土師祭

土師祭に登場した千貫神輿(右)と、らき☆すた神輿(左)  
(埼玉新聞2018年1月1日記事より)



# 七夕まつりの今と昔

昔



『女文章教草』天明5年(1785)

今

- 自分の七夕に関する経験や体験について振り返って考えてみよう☆
- 自分の地域の七夕に関する伝統や行事・習慣について調べてみよう☆
- 他の地域では七夕に関するどのような伝統や行事・習慣があるのか、JAPAN SEARCHやADECなどのデジタルアーカイブで調べてみよう☆
- 外国には似たような文化・風習はあるのかな？ Europeanaなど外国のデジタルアーカイブで調べてみよう☆
- 学習を通して考えたことや新たに生まれた「問い」を書いてまとめてみよう☆

## \* 先生方へ

### ・本教材における新聞の扱いと引用表記の方針について

新聞記事の活用の利点は、地域色の強い伝統行事や独自の取り組みを通して、普段よく知る場所や人の情報に親しみながら学べることです。また新聞記事の情報の真偽を自分自身で確認しやすいことも大きな利点です。記事が書かれた年月日の情報や新聞の何面記事かがわかる状態にすることで、季節や時代の影響、時系列の変遷や比較など、様々な観点で思考できる可能性が広がります。

### ・アレンジについて

上記のような地方新聞の記事活用は、著作権がクリアできていれば、様々な地域で取り組みやすい教材づくりの一つではないかと考えて、授業者が選んだ新聞記事を差し替えても成り立つような構成を考えました。

### ・本教材における教材作成のプロセスや工夫について

新聞記事と大学所蔵の資料に見られる祭礼行事を「今」と「昔」という観点で比較することから、大きなテーマの下に左右2対のタイトルと画像が双ぶフォーマットを選択していくつかコピーをしました。その後、画像資料を見ながら大きなテーマに自分が思いつく「投げかけたい問い」を記入する作業と、テーマに合った画像を貼り付ける作業を行ったり来たりしながら繰り返しました。今回は私が問いを考えて、画像を探す作業に資料提供者の方の応援をいただきましたが、どの工程もオンライン上で共同編集作業をしやすいのがデジタルアーカイブの利点ではないかと思えます。